

昭和18年1月1日（金）

曇り、時々陽射しあり。4時半、貴船神社にミワさん参詣さる。此朝4時より、皇軍武運長久祈願祭。区民の参拝を慫慂さる。昨年は日出町が貴船神社の世話掛として、参拝者の為種々設備を整えたが、本年は参拝者の一人となって押出せばよい。此の朝雑煮。但し湯の中で軟らかにして、別に具を入れた鍋から其の具を餅の上にかけて供するのを、夫れでは芯まで軟化しない憾みがあるから、焙くに限るとの余の言を容れて焼くことになりたり。而して焼いた餅は依然、具の中にて煮ることをせず。餅の上に熱い具をかけて食べる主義は改められない。融ける惧れがないから、其の方がよいのだろう。此日より餅を一椀に縮減することにしたが、強いての薦めに二ヶ計り多く食べた。正午頃、巖、和博と悦子を連れ重箱に昆布、白黒豆、牛肉、鯊（はぜ）、里芋、膾（なます）等、色々煮付けを盛り、牛蒡と甘藷の天麩羅を加え持参。外に金10円呉れた。返禮に、子供等の為にケーキ蜜柑等遣った。街路の掃除は、元旦丈けは遣らぬらしくやめにした。夕食は例の貰った天麩羅、芋、豆等にて半椀頂く。頃日、飯も半椀以下に決めた。ミワさん神様に何回か行かる。神棚や廊下の掃除も出来た。坊や澆漉たる元気なるも嬉し。

昭和18年1月2日（土）

晴れたり曇ったり。3時40分頃起床。昨夜も林檎を頂きし為か、通じ具合宜し。朝、街路の掃除を了す。餅焼き一椀にて止む。平素なれば二三椀平らげ、豪傑振ったものだ。夫れを平気で一杯で済まされるに至っては、我ながら感心し居る。此の分では母堂よりも少食かも知れぬ。

そして腹調子は多食の時よりよし。敏子さんより小包到来。母堂とミワさんにはネルの腰巻き、余には靴下三足、坊やには10円為替。尤も為替は、二三日前に手紙と共に同封されあり。此の夜7時頃、くぐり戸を叩く者あり。開けて覗くも人影なし。少時、勝手に戸が明きたる気配に出て見れば、佐世保の中尾と云はる。40余りの女房と10歳計りの女兒と、亭主と思はるる40搦みの男子と三人連れなり。玄関より通したるも火の気なし。母堂一行、未だ湯屋より販宅されず。余の股火も心細い程少し許りなり。10分程事務室にて話す間、一同販宅。漸く愁眉を開きたり。母堂火を起こし夕飯の準備さる。牛肉200匁は此の場合頗る調法せり。かくて9時、酒も5合程残り居り、過半平らげらる。我等は玄関三疊に休む。11時半。

昭和18年1月3日（日）

曇り、定刻起床。昨夜坊や11時まで寐ず。頃日坊や余と寝るを欲せず。強いて寝せんとすれば叫喚、援けを求める如くす。昨夜はミワさん起きて居る間は、眠くとも睡らで待ちしものの如し。11時の汽車にて宗一氏一行出発。下駄及び林檎5土産に遣る。朝は餅焼きして馳走す。夕食時、巖来たり。良助へ和博悦子の慰問文、絵画等を贈ることとし、余に見て呉れと出す。夕飯を馳走して其の間、結婚問題に付き、林野氏との話の内容を咄し呉れたり。100円の国債債券の保管を持込む。

昭和18年1月4日（月）

小雪降り、朝の内白し。簡単に掃除す。9時になりても伊勢氏不来。為替係に依り表戸開放。余出局、電報はミワさんに送って貰ふ。伊勢さん病気かと思い、鶴居に電

話し、局長より直に尋ねてみようとの挨拶ありしと。後刻伊勢さん田舎に行き販宅せずと。販ったら自分より克く注意置くべき旨、回答あり。開局以来、責任を以て窓口事務に当たりしこと今回を創めとす。軍事小包を日華小包としたるなど、色々失敗あり。夫れらも前田員とも協力して片付けたり。夕食5時。前田氏に頼みて急ぎ摂取。

昭和18年1月5日（火）

新年宴会。十時頃坊やの寢床より燠（くすぶ）り、敷き布団二枚、畳を焦がす。ミワさんの報告、座敷燠り居ると落付きたるもの。坊やに異常なし。炬燵敷き板、大穴明き、火鉢を差入る能わず。ミワさん大川薬店の隣の金物屋より、鋸切り2，80にて求め来らる。乃ち之を使用して、応急敷き板調製す。夕食後理髪。角野氏の数軒先にて、誰も来客なきを認め入る。夕食と見えてなかなか出て来ぬ。新聞を見て消閑。汽車時間に間に合うやうとの来客あり。余先着を譲りたるも、間もなく妻女来たり、余に向かふ。夕方伊勢氏来たり。求菩提山の下の親戚かかり行き、雪に降込められ、焦慮しつつも出発し得られざりし旨弁解。手紙は発送しありたりと云ふも、到着せざるは当然と思堆す。森田さん夕方販局。

昭和18年1月6日（水）

小寒入り、小雪降る。伊勢氏八時より来局。餅四ヶ、飯は不食。切手請求。此日、売捌き所より請求頗る多く、四百円を超す。窓口多忙を極む。切手受取りにも行く。恰度、用済み倉庫掃除しつつあり。右から左に請取り、帰局す。然るに5銭印紙の請求、森久より一千枚あり。三時頃臨時請求したるに、明日にして呉れとあり。乃ち

奇数日にてもよいと云ふ。夜、坊を負うて一時間近く外出す。ミワさん報告物にて忙がし。坊を寝かして、余も亦寝る潮時10時半。寒気強し。久垣仲人、一時頃来たり。一時間喋る。

昭和18年1月7日（木）

晴れ。朝来小雪。10時頃より陽射しあり。風なき方面は暖かなり。切手請求も受取りにも余行く。午後4時頃、坊を負ふて巖方に至り、保管証券に対する通帳記番号を訪ね販る。夜、七草餅を粉にして飯に入れ、味附けして二階と伊勢さんに出す。

昭和18年1月8日（金）

昨日切手請取りに行きしに、木下主事より自分の推薦したる女子事務員志望者、心境の変化より裁縫習いに行きたき由申出で、仕事の方は産業組合に出て居るを辞して、他に奉職することも村の手前悪しと云ふ。夫れも理由あることとて、駅前一旦約束せしことなるも、自分より可然挨拶すべしと云うことになり、先方の申出を諒として、事務員志願を取消すこととせる旨申出あり。余も多分そんなものなるべしと想像し居たる旨、通告。此の問題は打切りたり。併し高女卒業にして、今回欠員補充として採用を前に補充を許されぬこととなりたる為、その者を採用されてもよしと云はる。身元調査は済んで居ると云ふ。此日は切手請求なし。此の朝も餅頂く。蒲鉾出来、三十本10円50銭分持込まる。

昭和18年1月9日（土）

奇数日に請求せぬ筈なりしも、印紙不足、遂に請求す。

尤も庶務の諒解を得たり。千代田生命請求貯債30円券、五枚を交付して現金を受取る。印紙受取りにミワさん行かる。昨、二千枚請求の印紙も悉く売切れとなる。此の日四千請求す。為替岩尾さん10円欠損。峯への蒲鉾50銭のもの、二十本調製持込まる。無烟炭火鉢も5円にて求め来らる。小母車を利用。

昭和18年1月10日（日）

気温上昇。午後より小包梱包。峯注文分10円に対し50銭20本。他は35銭30本を峯に6本、野口氏6本、二郎、貢各9本。峯分二個、他は一ヶ合計5個。夜9時までかかる。夜働き駄賃に林檎1ヶ頂く。此朝餅焼きす。無烟炭半噸（トン）到着、局前に放置す。此の代金18円45銭。木炭配給なくガラの要求多しと云ふ。澄子よりの手紙。粉（そぎ）と広瀬との選択は余に任すとあり。此日塩鮭の配給一人40匁。夜は此の塩鮭にて夕飯を頂く。

昭和18年1月11日（月）

雨降る。気温上昇。腰湯割合に冷え方遅し。午後曇り、風強し。小包朝8時過ぎまでかかり、絲をかけ普通小包にて発送。210を要せり。塩川、野口、東京二郎、峯、道子。之が為、朝食遅くなる。午後貢氏より電報あり。第一生命受付、12日19時29分中津着〇〇来るとあり。召集令状と認めらる。午後より寒気加わる。

昭和18年1月12日（火）

夜来降雪。吹雪と化し、朝起きれば便所廊下一寸程積む。箒にて払除けたるも、寒気殊の外強し。街路も二三寸積雪地あり。一寸程は水分を含みあり。ミワさん神様

に余の長靴を穿き行かる。曇り。交通頻繁なる街路は、午後には過半消失せしも、陽当たり部分以外は消えず。今日は切手請求に行かぬ積もりなりしも、売捌所よりの請求に在庫欠乏の恐れあり。請求を余儀なくさる。ミワさん肴屋を訪ぬるも鮮魚なく、僅かにナマコを求め来らる。丸久肉屋は此日売出しに非ざるも、数回交渉、遂に若主人に頼み二百匁を得たり。鋤焼きせんとす。ホーレン草及び白菜、葱も手に入れ、菓子も饅頭一円以上頒与を受く。何れも貢を喜ばす資料たらざるなし。斯くて座敷に莫蔭を敷き、嘗ての焼傷を隠し、吊り下げありし着物類を取外し、飯台を置き準備出来たり。午後7時29分駅に迎ふ。不来。一旦帰り、更に8時過ぎも再び出掛く。寒さ強きも駅には火気なく、皆寒さに慄え居る。この汽車に最終乗客が皆出切りたる際、道子余を喚ぶ。小倉から中津間汽車賃支払いの為、貢駅長室に在りと。貢理髪屋は9時迄営業。駈け附けたる時は既に9時を過ぐ。其の前に写真を撮ると云ふ。白光写真館を訪ふも寝て起きず。再び理髪屋に戻り、將に髪を坊主頭に摘まんとする刹那ミワさん駈付け、写真屋数軒訪ね、漸く日出町にて写し貰ひたる由。臈（やが）て坊主となり来宅。菓手に舌つつみを打ち、酒を三四本出す。飯は母堂ミワさん坊やまで食う。道子の囁き。京都付近にて、貢が百九十円汽車中に遺失せりと。それで母堂より30円、ミワさん10円、餞別としてやらる。寝る時1時を越ゆ。我等は食事部屋に莫蔭を敷き、座敷は貢夫婦に当つ。坊やこれまで寝らず。

昭和18年1月13日（水）

此朝、雑煮餅6時より食す。出発6時半、稍遅れたるが切符はミワさん買って下さる。汽車20分程延着。満員に

て遂に立つべく余儀なくさる。此日に限り恒例を破り神仏を拝せず。雑煮を頂く。ぼんやりして何事も手が付かぬ。夜9時寢床。5銭切手欠乏を告げつつも、此日奇数日請求せず。曇り勝ち。木下主事6時半まで立寄らる。

昭和18年1月14日（木）

三共に蒲田氏を訪ね、無烟炭まだ其の儘故、裏庭方面に運搬方で、今取り運ばす。一円沖士に遣り早く片付け貰ふ。同氏の指図により、50銭にてよしとのこと。かくて午後沖士来る。ミワさん50銭遣らる。此日切手請求。三共の前にて、松川先生と喚ぶ者あり。振り返れば石炭三共の小川に沿ふて来る管家原さん、同夫君なりし。久闊を叙し、夫君を紹介されたるにより、同大尉にも厚く従来之交誼を謝し分袂（ぶんべい）。切手類はミワさん小母車で搬んで下さる。深町長臨局。1月6日附け、田所茂氏五級棒に昇給。依願免と共に耶馬溪局長拝命さると。蒲鉾送りし案内状、二郎に発送す。母堂入れ歯故障。朝切手資金払込み帰ると同時刻、角野氏に行かる。其の為朝雑炊。夕食うどん。

昭和18年1月15日（金）

朝、街路雨に濡れ掃除を省く。ミワさん御櫛を換え神棚を浄めらる。曇り勝ち。林の嫁さん11日男児分娩、母子共健全の由。昨、恒住咲子氏に葉書。二郎に書きし際、一緒に認め投函す。木下主事の話に、子供まで持ち離縁せし如し。巖へ如何と思ひしなり。朝食、残うどん。母堂は粥、夕食は入れ歯の修繕出来、鋤焼きして食べらる。余は朝の粥を頂く。年功加給、戦時勤勉手当の請求を了す。朝前田氏、伊勢氏と一緒に警察行き。先日貯金預け

入れせしパン屋の主婦の百円札は、人の物を取りしやにて、顛末を認めさせらるらし。其の間、岩尾氏代務。此日、二百円過剩臨時受けす。其の為、6時過ぎまで居残る。

昭和18年1月16日（土）

此朝掃除す。切手請求なきも正午資金請求に行く。夕食時間久垣氏来たり。粉氏、去る土曜日より三日間当地に来たり、別口候補を捜し居る旨情報ありと。途中で粉氏に会す。販るまでの間立寄れと約束しつつ、遂に其の儘、販幡せしこと判明。其の不信を詰り居る。余も亦、粉氏の態度に誠意の認むべきものなきを以て、断然解消を通告す。此の夜6時、道子より久留米市内発至急電報にて、貢の部隊名を呼子役場に電話照会、峯へ電報せよとあり。6時過ぎて通話し得ず。且つ呼子は通話区内に非ず。種々研究の結果、明朝に持越す。日曜にては役場も係員出勤なからんとこの惧れもあり、唐津の恒安弁護士に電話することに方針を決定せり。

昭和18年1月17日（日）

晴れ。朝7時、番外1番より通話のことに諒解を得、唐津と通話。20分位にて恒康氏と通話し得、二通話分1, 40中津局に支払ふ。別に峯に速達を、道子に葉書を以て成行を通告す。朝髭剃り10時に垂（なんな）んとす。朝餉を省きて、ズボン国防色のを、上衣の外に事務服を纏い下駄穿きにて出発。梅の井別館の会場に至る。栄町、鶴居、豊後町、今津等先客あり。予て配付の書類に依り、10時半より協議を凝（こら）し正午に済む。此日酒肴の準備ありしやなるも、余は正午を帰して販局。ミワさん餅



四五個を焼き下さる。消耗品の報告あり。此の朝画期的煙草の値上げあり。商家一齊に門戸を閉鎖し休業す。蓋し、商品に対する正札の付け換えを要する為の対策と認む。酒の如きも一升三円四五十銭となり、一円の大量値上げとなる。衣料切符も総て増加す。遊興税、観覧税一切値上げさる。酒も煙草も観覧方面も、更に着物も。要なき余には何等の痛痒を感じず。晴天。風なき部面は暖かなり。

昭和18年1月18日（月）

快晴。春になった心地、寒中とは思はれぬ。切手請求。50円母堂の入歯に費える。此日、新規調製分出来、大体に於いて具合よさそうなり。予て母堂より二百円借用し居るに付き、50円返戻。室外は風なく頗る暖かなり。併し室内は追（さすが）に厳寒だけに、火気なしには過ごされぬ憾みあり。切手類請求には葉書なし。印紙10円5円等、準備不充分と認めらるる向きに対し請求す。常安弁護士より葉書来。役場に問合わせ、西部五四部隊と判明。日曜日、電報にて峯に通知済み。但し夫れ以下の部隊名は不明とあり。兎に角、埒明きて安神せり。

昭和18年1月19日（火）

午前中晴れ。ミワさんに恒住咲子さん宅に行って貰ふ。其の間、坊やを日向に一時間余守りす。先方に着2時、而して挙家不在。4時まで待合せ、5時半頃帰着。咲子氏、戸畑に部外方面に執務の由。行く時はバスにて賑りは徒歩。黄粉四袋程求め来らる。1時過ぎ坊やを炬燵に寝かす。ミワさんホーレン草、土産に持来。澄子道子より葉書、書状来る。貢氏よりも葉書にて、西部五四部隊

山口隊松田班とあり。一日半違え??にて大騒ぎせり。道子の通信には疲れて寝て居りし際、峯より電報。裁判進行上、部隊名通知方来照のもの。久子と一緒に久留米に行きしも、部隊名不明とて所在判明せず。窮余、余に電報せし如し。澄子は砂糖、メリケン粉等送れと、2円送付越せり。電燈料5円余かかる。20キロを超せば税金かかるらし。併し斯かる多額を支払えし例なし。

昭和18年1月20日（水）

晴れ。寒中と云ふに温度上昇。殆ど火気を要せぬ位なり。室内に在りても暖かさを意識さる。戸外は陽春の如し。母堂入歯の調子を見る為、此日角野先生かかり行くこととなり居り、午前中行かる。恒住咲子さんの母堂見ゆ。座敷に通して茶菓を薦む。母堂余の話に共鳴、満足の意を表さる。余は因果律を説き、苦難に対する心構えを説きしのみ。色々苦勞を味わい来られし母堂には、体験を通じて感鳴する所ありし如し。甘藷持来さる。敏子さんより手紙来たり。山根氏より電話ありし趣を伝ひ、場合に依りては召集取消しとなることありと云はる。他の弁護士に宛てたる召集令状を以てし、証明資料確立せりと云はる。消耗品現在高調書、8時過ぎより作成、12時に及ぶ。坊やを負ふて7時半頃より駅に行き、飯れば降りると泣く。ミワさん居眠り多く、仕事をさせんとせし余の意思に添はず。林檎頂く。朝は残りの餅、キナコにて頂く。

昭和18年1月21日（木）

昨夜月清し。晴天。厳冬と思はぬ暖かさ。昨夜1時まで起き、消耗品現在高報告作成の為め、午前中眠く仕事 hands 手即かず。午後より仕事す。栄町局、小為替券請求

未着。中学校上階学校受験料納付の為にする小為替の振出し多き際、嘗て中津局で遣りし手を遣り、電信日附印を貸し用紙何枚かをやる。3時頃局長見ゆ。夕餉時に恒住氏より頂きし甘藷頂く。軟らかにしてお旨し。馬鈴薯、人参に牛肉を入れたる副食物あり。この分も頂く。坊や湯に行き林檎磨りやる。夕方より曇り。道子よりの通信。久留米に面会に来いと電来たり。加養中なるも行く。一両日中の出征の筈とあり。慌ただしき出発に面会人山程ありしと。

昭和18年1月22日（金）

曇り、温度上昇。但し朝来降雨。後幾分直り、午後に至り晴れ。切手請求にミワさん行き、保険係に寄り来らる。午後請取りにも行って貰ふ。税務署関係報告物で時間を費やす。ミワさん菓子、蒲鉾、テンプラ等求め来らる。午後9時まで売捌所切手類計算にかかり、次いで福岡への小包梱包にかかる。2時頃坊を寝かす。朝は甘藷に粥食一杯頂く。夕食は味飯にて軽く一椀頂き、蜜柑を食ふ。又、林檎をも味わふ。

昭和18年1月23日（土）

朝降雨の為、街路濡れ掃除中止。曇天より次第に晴天となる。午後1時資金請求に、西田さんより土曜日は11時半までに請求して呉れと注意あり。正午余の許に為替より持込み、零時半頃より出掛けたるもの。天気好く日向は暖かし。午前中睡く何事も手に着かず。母堂、余の草履片々履かる。遂に意を決して、緒が切れた草履を修繕す。一時間計り仕上げの為に要し、仕事順位を狂はす。併し草履は立派に御役に立つに至れり。澄子より速達に

て、久子等の籍を送って呉れるよう、野田班長よりも注意ありし由、申来る。本朝発送の小包は明日は届く筈。メリケン粉、砂糖（少し許り）、菓子、蒲鉾のテンプラ、何れも珍重がらること請合い。

昭和18年1月24日（日）

曇り、今日は街路掃除す。税務署に報告すべき切手類の計算は出来居らず。算盤を入れる。但しミワさん読み上げ、10時を過ぐ。午前中一時晴れたるも、間もなく再び曇る。夕餉時、天麩羅、甘藷揚げ頂く。森田さんにも遣る。初め遣らぬ筈なりしも、余の頒け前やる。昨日森田さんも拵へし由。5時頃ミワさん横田へ招かれて行かれ、餅一升程貰って来らる。これに糯米一升程、曩に貰った分を餅屋に持行かれ、搗（つ）いて貰ふことにせらる。うどん、メリケン粉も求め来らる。別に米と差引はせぬらし。米も今月分代金支払ひ来らる。坊や負われて時々睡りたるためか、11時まで起きて散々手古摺らせる。

昭和18年1月25日（月）

概ね曇り。朝粥食一碗にて足る。夕食も半碗にて辛抱す。胃腸の加減は良し。ミワさん配給券の異動に付き、区長に用紙を貰ひ手続きす。市役所に提出を要する由。蒲鉾20本求め来らる。電話ありしも多忙にて30分遅れ、20本の約なりしを10本に削減さる。事情を陳べて漸く定数を得ると。鼻息荒きこと夥し。夕食5時を過ぐ。為替前田さん、先週は事故なく慶賀に不堪。請求書本局関係なく、売捌所よりの分も珍しく取扱いなし。

昭和18年1月26日（火）

晴れ。風を遮断の日向は暖かなり。10時切手資金の払込みに行く。雑炊二椀頂く。蒲鉾20本の内、林の出産祝いに5本、久垣博（仲人）に3本。此れは午後ミワさん坊を負ふて、金谷の同氏宅を訪ふて土産とせらる。偶々、博氏不在。息子の若者のみ在宅の由。此日市役所に異動届を提出し、之が証明書を得て道子宛て発送せらる。余も消息を洩らし遣る。米は減員前の人数にて、既に前日搬入あり。来月分砂糖と塩が、従前通り配給せられぬこととなりたるのみ。夕食にうどん、蒲鉾の天麩羅、四本を得られたる由にて造らる。普通より大食せしか、仕事の手に着かぬ位眠し。一類を検査し更に電報書類に及ぼさんとせしも、森田さん二階に持行き未提出。総じて森田さんの場合には、自分の仕事の関係上、電報書類は後廻しとなる嫌いあり。栄町局長より、無集配局機構の改善問題に付き諮問ありしやにて、意見を徴し来らる。

昭和18年1月27日（水）

晴れ。道子より速達便にて、配給人員異動証明書の急速送付方を要望。久留米貢より、未だ出発が決定して居らぬとのことで、パンを造って面会に行つて、未だお昼頃から午後6時まで会うことが出来る。母堂と、更に一度会いたい様なことを謂つて居た。若し来られるなら、福岡に一泊予定で来て貰ひたい云々。ミワさん母堂に諮り、明朝出発することとなる。電報を道子宛てに発送せり。「アス10・16 ハカタツウカ アンナイタノム」是れにて意が竭（つ）くせると思った。準備で多忙を極め、湯屋にも夜10時近く行かる。給料伝票、今朝配達を受け分配を了す。菓子を手に入れ、予て頼みありし餅も出来上がり

持参さる。小塊40箇余りあり。

昭和18年1月28日（木）

晴れ。昨夜2時頃まで起きて居られた様子。余は11時近く寢床。坊やは湯より販り、更にミワさんに負われて睡入る。今朝6時に起こす。朝食6時15分、終わりし時は30分。余は猶食べて居り、母堂は中途仕度にかからる。出発時は発車時刻を過ぎてあり。ミワさんにしても橋を渡り居る間に発車す。母堂未だ見えず。かかる始末にて一時引き返し、7時より再び出掛く。ミワさんに小倉よりの急行券を求めしむ。7時、其の跡を追ふて駅に至りしも、ミワさんの姿見えず捜査す。急行券は売らぬので、駅長室に談判して購入したる由。かくて漸く愁眉を開き乗車す。女生徒が下車した後は空車同様にて、便所近く座を占め坊やを連れ込む。発車後、7時30分頃より街路掃除し、次いで室内の分に移り、切手請求出来ざりし。夕食は残り飯、蒸し直しあり頂く。冷えたまま10時、坊の炬燵、猶暖かなり。煉炭一ヶを入れ、火を行火より移して母堂の部屋にありし儘、寝る。

昭和18年1月29日（金）

曇り勝ち。薄雲漲り、陽照らず。函場整理の結果、売捌所は十軒に減じ、一ヶ月三千五百を出づる能わざることとなる。昨からの累計3400、猶100円を剩す。乃ち此日5銭切手没有、二十枚請求。打切りとなる今朝、7時より火を起こし湯を沸かしたるも、其の儘ストーブに補充し、朝食代わりに牛乳二合頂く。掃除、神仏への花水取換ふ。後刻一時切手受取りに行く。帰ればミワさん方、販宅し居る。税務署より計算書の督促あり。栄町よりは無集配

局機構改善に付いて、意見書提出の期日、此の日に逼（せま）り浄書し遣る。計算書は6時過ぎに差立つ。母堂等一行、福岡にて道子に面会。同一急行にて乗車。久留米はバス10、花畑下車。幸に面会叶え、6時まで一緒に遊び居り、退出時刻に辞して電車にて福岡着。何れも順調に、滑るが如く取運び得たりと。

昭和18年1月30日（土）

朝小雪ちらつき、一時天候嫌悪を思わせたが、間もなく平静に帰す。此日、切手類請求をなさぬつもりで、葉書一枚もなく穴瀬より200借り一時を凌ぎたるも、それだけでは不足を感じる恐れあり。思い切り2時頃請求せり。而して二千枚中、残千四百となる。之が受取りにミワさん行きしも、餅も頒与し呉れたる由にて、持来られぬと悲鳴挙げらる。余急行、餅及び葉書を持販る。切手類の整理も依然、余着手。

昭和18年1月31日（日）

日の出町漬物屋の若者、午前7時入営。ミワさん坊やを負ふて行かる。徴用戦士、一般入営等多数。楽隊が繰出し駅構内雑踏の状、想像せらる。下り臨時列車にて出発。此の間、余街路掃除す。小雪さらつくも、午前幾分晴れ。餅焼き、雑煮頂く。午後、遮蔽幕に付き見積もりに女将らしき人と職人と来る。女将は今殿町局長となる人の母堂と分かる。嘗て一度、余の許に来たりしことあり。夜7時より常会。湯より販り森田さんで行かる。坊は余、之を負ふて寢床を造り寝かす。坊や克く泣く。甘えるらし。